

2023

12.13 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_AgpKWJb-Tkqeb_LU4DFkkg

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

サイエンスコミュニケーションとは？ その重要性とは？

司会：キム シューマツハ 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



Key Words

サイエンスコミュニケーション

教育

アウトリーチ活動

広報

パブリックエンゲージメント

ダニエラ・エレンビ 学術推進専門員

広報本部

イギリスのレディング生まれです。2017年にオックスフォード大学で生物科学の学士号を取得後、2019年にインペリアル・カレッジ・ロンドンでサイエンスコミュニケーションの修士号を取得しました。同年11月に来日し、沖縄科学技術大学院大学(OIST)でサイエンスコミュニケーションに就任しました。OISTでは、サイエンスコミュニケーションとして研究成果を世界に発信するだけでなく、2022年よりJapan SciCom Forum (JSF)のチームメンバーとして活動を開始し、同年にOISTで開催されたJSF 2022のオーガナイザーを務めました。JSFはサイエンスコミュニケーションのコミュニティで、日本において英語によるサイエンスコミュニケーションを促進することを目的としている学会です。2023年7月から、現職である九州大学広報本部学術推進専門員(サイエンスコミュニケーション)を務めています。

「私はサイエンスコミュニケーションです」と伝えると、多くの人は困惑した表情で「サイエンスコミュニケーションって何ですか?」と尋ねてきます。多くの人が戸惑うのも当然で、サイエンスコミュニケーションはとても曖昧に定義されており、その範囲は非常に広く、科学ジャーナリズムや科学におけるアウトリーチ活動から、科学政策(学術政策)やヘルスコミュニケーションに至るまで、幅広い分野が含まれています。しかしその本質はシンプルで、サイエンスコミュニケーションは、科学と社会の架け橋となり、地元の人々や世界中の人々に向けて、学術分野の重要な研究成果をわかりやすく発信し、教育し、科学に関心を持ってもらうことを目的としています。こういったサイエンスコミュニケーションは、多くの場合、学術機関の広報などを通じて組織レベルで行われるか、あるいは科学者自身によって行われています。今回のセミナーでは、日本の学術機関におけるサイエンスコミュニケーション活動の現状、その重要性、そして効果的なサイエンスコミュニケーションが科学者と一般市民にとってどのように役に立つのかについてお話しします。